

湯来地域における小学校・中学校の在り方検討会議について

1 設置の背景と目的

湯来地域は、他の中山間地域と同様に人口減少・少子高齢化が急速に進んでいますが、自然や温泉、歴史、文化、こだわりの食材など豊富な地域資源を有するとともに、地域住民による主体的なまちづくりが進んでいます。

その一方で、湯来地域の学校は、複式による学級編成や各学年 1 学級でクラス替えが行えないなど、小規模化の進行により、児童生徒が多様な意見や価値観に触れ、相互に刺激し合い、切磋琢磨する機会が少なくなることや、中学校の部活動において生徒の要望に十分応えられなくなるなどの教育面の課題が生じています。また、学校の校舎は、その大部分が建築後 50 年を経過しており、老朽化による機能低下も進んでいます。

今後も少子化の進展が避けられない中で、更なる児童生徒数の減少や学校施設の機能低下等の進行により、適切な教育環境が維持できなくなり、いずれは湯来地域の全ての学校が、教育機関としての役割を果たすことが困難になる恐れがあります。

これらの状況は、湯来地域のみならず、中山間地域をはじめとして多くの地域で顕在化しており、県内の市町でもこうした課題を解決し、よりよい教育環境を確保していくため、学校の統廃合が進んでいます。

本市では、「自分たちのまちは自分たちで創る」という意識の下、まちづくりが進められており、湯来地域においても、近年、こうした動きが加速しています。

その中では、子育て世帯を含めた若い世帯を中心とする定住者の呼び込みに向けた取組なども進められており、学校は地域で子育てをしていく上で重要な要素となっています。

こうした学校を地域に存続させていくためには、単なる教育機関としての役割のみでなく、地域の特性を生かした魅力ある教育を展開する学校としていくとともに、地域活性化の観点から、地域コミュニティの核としての活用を進めていくことが必要となります。

これらの考え方の下、湯来地域に存在する小学校 3 校、中学校 2 校を統合し、小中一貫教育校を設置することも含めて、将来にわたって湯来地域の子どもたちが質の高い教育を受けられるよう、まちづくりの観点も踏まえながら、地域住民が主体となって湯来地域における小学校・中学校の在り方について検討し、湯来地域としての意見を取りまとめます。

2 検討の視点

会議における議論が、子どもたちの幸せとまちの活性化につながるものとなるように、次の 4 つの視点に留意して検討を進めます。

- (1) 個人的な価値観や居住する地区の利便性等に捉われることなく、湯来地域全体のことを考える。
- (2) 現在の状況だけでなく、10 年後、20 年後の子どもたちにとっても質の高い教育が受けられる環境を考える。
- (3) 学校の教育機関としての機能だけでなく、地域コミュニティの核としての機能についても考える（地域活性化、地域住民の交流、子育て支援等）。
- (4) 批判や否定をするだけでなく、代替となる案を提案するなど、前向きな議論をする。